

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第9回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

## 「雪ゾリ」

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

寒い冬の野外での仕事は辛いものですが、林業ではむしろ雪が降ってから行われ



大正時代末頃のソリ運材（現在の木曽森林管理署管内）

る作業もありました。ササや灌木が生い茂った山に出入りするのは容易なことではありませんが、雪が積もればその上を通ることができません。また雪ゾリを使うことで、道が無くても木材を運び出すこともできるようになるのです。



昭和三十年代前半の手ゾリ運材（現在の飛騨森林管理署管内）

雪の高さの分、伐採する位置が高くなったり、雪を掘る作業も増えたりもしますが、雪上に伐倒したほうが樹木が傷みにくく、ブナなどの広葉樹は、菌による腐れや変色を抑えられるという利点もありました。



昭和30年代後半の馬によるソリ運材（現在の飛騨森林管理署管内）

雪ゾリにも人が曳くもの、飛騨地方で見られた手ゾリ、馬に曳かせるもの、積雪量や雪質による使い分けなどで幾つもの種類がありました。林業の機械化と自動車の普及によって次第に消えていくこととなります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

